

令和6年度

事業報告

社会福祉法人 熊野市社会福祉協議会

目 次

■令和6年度を終えて	1
------------	---

■事業報告

I 法人運営	2
--------	---

1 安定した法人運営と財源確保	2
2 適正な会計管理と基金の運営	3
3 人材の育成	4
4 広報活動の充実	6
5 デジタル化の推進	6
6 施設の指定管理	7
7 収益事業の実施	7

II 地域福祉事業	8
-----------	---

1 地区社協の機能と生活支援体制整備の強化	8
2 地域福祉活動の推進	8
3 ボランティアセンター機能の強化	9
4 障害福祉事業の推進	9
5 権利擁護支援の安定	9
6 生活困窮者への支援の充実	10
7 社会福祉大会の開催	10
8 福祉団体等の支援	10

III 福祉サービス事業	11
--------------	----

1 居宅介護支援事業の運営	11
2 訪問介護事業の運営	11
3 通所介護事業の運営	12
4 訪問入浴介護事業の運営	13
5 生活介護事業等の運営	14
6 障害者就労・支援事業等の受託	15

令和6年度を終えて

介護保険制度改正による報酬引き下げや移動に係る経費の増大など、振り返れば介護業界にとって非常に厳しい年度となりました。人材確保については、登録ヘルパー等、非常勤職員の確保が思うようにできず、事業収入の増加につながりませんでした。

この状況を改善させるべく、役職者をはじめとして、全職員が一丸となって取り組みました。

法人運営事業では、副業や子育て支援などに関する規程を改定し、職員の多様な働き方を応援しながら、様々な内部研修の他、外部への研修参加を促すなど、人材の育成に努めました。また、継続して事務のデジタル化を推進し、職員の事務負担軽減と利便性の向上を図りました。

地域福祉事業では、各地区社会福祉協議会、民生委員児童委員、行政機関等と連携して、地区懇談会を実施し、地域の困りごとを抽出し、その後の対応に努めました。また、フェスタ、ミニフェスタ等のイベントを通常通り盛大に開催することができました。さらには、地震に続いて大雨により被災した能登半島の支援を継続して行い、被災地の復興活動への職員派遣を通じて、災害の実態を体感し、今後の災害対応に活かす機会を得ました。

紀南圏域での人材創出の催しにも積極的に参加し、社会福祉協議会として主導的な役割を果たし、大きな成果を出すことができました。

福祉サービス事業では、デイサービスの新規利用者増を目指し、様々な催しを係や課を越えた協力体制で盛大に行い、少しずつではありますが、その成果を出すことができました。制度改定により義務付けられた虐待防止、感染症対策、事業継続計画策定などへの対応も行いつつ、丁寧なサービス提供を心がけ、利用者とそのご家族に安心してサービスを利用いただくことができました。

I 法人運営事業

1 安定した法人運営と財源確保

理事会、評議員会をはじめ、各種会議を開催して協議、決定を行い円滑な法人運営に努めました。令和6年度は、定例の事業計画、予算、事業報告、決算報告の承認の他、職員の多様な働き方を応援するため、副業を行える環境の整備、裁判員制度に対応すべく特別休暇の充実、法律改正に伴う育児休業の拡大など、職員の就業規則の整備を行いました。

また、人口減少や高齢化など、社会環境の変化に対応するため、役員等の定数を減員することになりました。

(1) 理事会・評議員会等の開催

ア 理事会の開催

開催日	審議事項等	出席者
6月10日(月)	<ul style="list-style-type: none">・令和5年度事業報告・令和5年度収入支出決算報告(監査報告)・就業規則の一部改定・非常勤職員就業規則の一部改定・処遇改善手当等に関する規程の制定・各介護保険事業所等運営規程の一部改定・辞任に伴う次期役員(理事)候補者の推薦・辞任に伴う次期評議員候補者の推薦・評議員会の招集	理事 9名 監事 1名
12月16日(月)	<ul style="list-style-type: none">・令和6年度収入支出第1次補正予算・就業規則の一部改定・非常勤職員就業規則の一部改定・給与規程の一部改定・評議員会の招集	理事 10名 監事 2名
3月17日(月)	<ul style="list-style-type: none">・令和6年度収入支出第2次補正予算・育児・介護休業等に関する規程の一部改定・介護事業所運営規程の一部改定・定款の一部改定(認可日 令和7年3月27日)・令和7年度事業計画・令和7年度収入支出予算・令和7年度役員賠償責任保険への加入・任期満了に伴う苦情解決第三者委員の選任・評議員会の招集	理事 11名 監事 2名

イ 評議員会の開催

開催日	審議事項等	出席者
6月27日(木)	・令和5年度事業報告 ・令和5年度収入支出決算報告(監査報告) ・辞任に伴う役員(理事)の選任	評議員 14名 理事 4名 監事 2名
12月16日(月)	・令和6年度収入支出第1次補正予算	評議員 12名 理事 4名 監事 2名
3月17日(月)	・令和6年度収入支出第2次補正予算 ・定款の一部改定 ・令和7年度事業計画 ・令和7年度収入支出予算	評議員 13名 理事 4名 監事 2名

ウ 評議員選任・解任委員会の開催

開催日	審議事項等	出席者
6月28日(金)	・評議員の選任	委員 3名

エ 監事監査の開催

開催日	審議事項等	出席者
5月20日(月)	・令和5年度事業及び会計決算の監査	監事 2名

オ その他会議の開催

正副会長会議(8回)、管理職会議(12回)、役職者会議(12回) 安全衛生委員会(12回)、虐待防止検討委員会、感染症対策検討委員会、事業所ミーティングなど

(2) 賛助会費

令和6年度	会員数	143件	令和5年度	会員数	134件
	金額	865,000円		金額	843,000円

2 適正な会計管理と基金の運営

会計基準や専門家の指導に基づき、適正な会計処理に努めました。2年に1度の所轄庁による指導監査が行われましたが、会計処理に伴う指摘事項はありませんでした。

(1) 会計支援

- ア 税理士法人 名南経営による会計業務支援(相談支援、決算確認業務)
- イ 株式会社 五大 OA による会計業務支援(相談支援)

(2) 基金の状況

積立金	R5 年度末	積立額	取崩額	R6 年度末
社協運用積立金	21,914,650 円	0 円	0 円	21,914,650 円
介護保険事業等運営積立金	26,443,700 円	0 円	0 円	26,443,700 円
職員退職給与積立金	4,620,947 円	0 円	1,280,020 円	3,340,927 円
災害ボランティアセンター 運用積立金	2,619,458 円	0 円	0 円	2,619,458 円
ボランティア表彰制度積立金	985,000 円	50,000 円	10,000 円	1,025,000 円
合 計	56,583,755 円	50,000 円	1,290,020 円	55,343,735 円

3 人材の育成

令和 6 年度職員研修計画に基づき、全体研修、分野別の内部研修を実施し、三重県社会福祉協議会やその他団体が開催する研修会へも積極的に参加し、職員の育成と資質向上に努めました。

開催日	内容等	備考
4 月 10 日 (水)	・共同募金担当者研修会 ・職場体験事業所研修会	
4 月 27 日 (土)	・精神医療に届かないアプローチ研修会	
5 月 7 日 (火)	・三重県経営者協議会研修 (労務管理)	
5 月 22 日 (水)	・日常生活自立支援事業専門員研修会	
5 月 23 日 (木)	・雇用主説明会	
5 月 30 日 (木)	・徘徊 SOS 声掛け訓練	内部研修
6 月 4 日 (火)	・三重県権利擁護支援研修会	
6 月 6 日 (木)	・三重県災害派遣福祉チーム (DWAT) 振返検討会	
6 月 10 日 (月)	・みえ福祉の「わ」事業説明会	
6 月 13 日 (木)	・日常生活支援事業専門員情報・意見交換会 ・ヘルパー研修会 (感染症)	内部研修
6 月 17 日 (月)	・三重県経営者協議会研修会 (人材確保)	
6 月 18 日 (火)	・社会福祉協議会基本要項フォーラム	
6 月 19 日 (水)	・福祉用具オンラインセミナー	
6 月 27 日 (木)	・多職種連携研修会 (第 1 回 探求! ナイトスクール)	
7 月 2 日 (火)	・次世代リーダー研修会	
7 月 9 日 (火)	・障害者就業・生活支援センター支援担当者研修 ・福祉教育意見交換会	
7 月 10 日 (水)	・多職種連携研修会 (第 2 回 探求! ナイトスクール)	
7 月 11 日 (木)	・紀南多職種連携研修会	

開催日	内容等	備考
7月11日(木)	・安全運転管理者研修会(井戸、飛鳥事業所) ・障害者就業・生活支援センター支援担当者研修	
7月12日(金)	・安全運転管理者研修会(紀和事業所)	
7月24日(水)	・福祉教育推進セミナー	
7月31日(水)	・都道府県経営協セミナー(前期)	
8月1日(木)	・次世代リーダー研修会	
8月2日(金)	・育児・介護支援研修会	
8月6日(火)	・介護保険サービス事業者等集団指導	
8月7日(水)	・全国福祉教育推進研修会	
8月8日(木)	・市町 幹部・リーダー級職員意見交換会	
8月19日(月)	・会計実務者養成講座	
8月20日(火)	・kintone ハンズオンセミナー	
8月21日(水)	・退職共済事務取扱説明会	
8月26日(月)	・生活支援コーディネーター研修	
8月28日(水)	・虐待防止研修会	内部研修
9月5日(木)	・次世代リーダー研修会	
9月9日(月)	・公正採用選考研修会	
9月12日(木)	・メンタルヘルス研修会	内部研修
9月26日(木)	・災害ボランティア研修会	
10月10日(木)	・ハラスメント研修会 ・次世代リーダー研修会	
10月15日(火)	・社会保険事務セミナー	
10月30日(水)	・救命講習会	内部研修
11月4日(月)	・防災訓練(紀和事業所)	
11月14日(木)	・福祉現場における記録の取り方研修会	
11月22日(金)	・日本福祉教育・ボランティア学習会	
11月24日(日)	・避難所での多職種連携災害訓練	
11月26日(火)	・紀南地域包括研究会いこら研修会 ・熊野市保健福祉センター防災訓練	内部研修
12月4日(水)	・三重県経営者協議会研修(職員採用のノウハウ)	
12月9日(月)	・ボランティアコーディネーター研修会	
12月12日(木)	・次世代リーダー研修会	
12月13日(金)	・紀南地域ケアマネ資質向上研修会	
12月16日(月)	・就労選択支援研修会	
12月17日(火)	・三重県介護支援専門員紀北支部研修会	
12月18日(水)	・改正育児休業法説明会 ・生活福祉資金説明会	

開催日	内容等	備考
12月19日(木)	・包括的な支援体制と福祉教育	
12月23日(月)	・災害ボランティアセンター研修会	
12月24日(火)	・ボランティアコーディネーター研修会 ・成年後見制度資質向上研修会	
1月15日(水)	・市町社協役員セミナー	
1月30日(木)	・市町社協事務局長研修会 ・ボランティアコーディネーター研修会 ・ワークショップ研修会	
2月4日(火)	・BCP策定後研等に関するオンマインドセミナー	
2月13日(木)	・都道府県セミナー(後期)	
2月14日(金)	・障害者就業・生活支援センター連絡協議会研修会	
2月26日(水)	・心肺蘇生法実技研修会	内部研修
2月28日(金)	・福祉教育に関する意見交換会	
3月4日(火)	・交通安全講習会	内部研修
3月7日(金)	・福祉教育オンラインサロン	
3月14日(金)	・災害ボランティア研修会 ・介護技術研修会	内部研修
3月18日(火)	・ひきこもり研修会	
3月19日(水)	・介護支援専門員協会紀北支部研修会	

4 広報活動の充実

全戸配布である「福祉くまの」の年6回発行の他に、ホームページやSNSを活用し、地域福祉活動を中心に、法人の事業に関する情報を幅広く発信しました。

またマスコットキャラクターである「くましゃん」をイベントや広報物などで活用し、PRに努めました。

- (1) 福祉くまの発行(年6回)
- (2) SNS(ホームページ、Instagram)での情報発信(随時)

5 デジタル化の推進

ペーパーレス化と事務担当者の負担軽減を図るため、データ保存や電子申請を積極的に取り入れ、デジタル化を推進しました。令和6年度は全職員を対象として給与明細の電子システムを導入し、スマートフォンなどでいつでも、どこからでも、確認できるシステムを構築しました。

- (1) 五大OAシステムの活用(給与明細システムの導入)
- (2) NAS活用による電子保存の充実

6 施設の指定管理

熊野市から指定管理者の指定を受け、施設の利用目的に沿った管理運営を行いました。

- (1) 熊野市高齢者生活福祉センター（紀和町）
 - ・紀和訪問介護事業の実施
 - ・紀和通所介護事業の実施
 - ・紀和地区社会福祉協議会、ボランティアグループ等への会場貸出

- (2) 熊野市障害者自立支援施設「あゆみ事業所」(井戸町)
 - ・生活介護事業の実施
 - ・障害者就労・支援事業の実施

7 収益事業の実施

紀南医師会、東紀州産業保健福祉センターと賃貸契約を結び、安定した賃貸収入、また一般業者への貸館業務も行い利用料を確保し、施設管理に活用しました。

- (1) 福祉団体・行政関係機関、町内会への会場貸出（無料）
- (2) 年間賃貸契約 紀南医師会（93,000 円/月）
東紀州産業保健福祉センター（27,500 円/月）
- (3) 営利団体等への会場貸出（309,148 円/年）

II 地域福祉事業

1 地区社協の機能と生活支援体制整備の強化

地区社協と民生委員、福祉委員等による地区懇談会をブロックごとに開催し、地域における課題や困りごとなどの聞き取りを行い、対応につなげることができました。生活支援体制整備事業では、介護人材不足に関する新たな事業と地域課題について検討しました。また、人材不足解消の一環として、めっちゃええやんコンテストを紀南地域全体で開催し、14の福祉事業所が参加。当地域に福祉の職場についてPRすることができました。

(1) 地区社協連絡会(年6回)の実施	連絡会6回 地区社協会長研修会1回
(2) 地区社協懇談会の実施(15地区)	各ブロックで開催4回
(3) 熊野市生活支援体制整備検討会議への参加	会議8回
(4) 熊野市地域包括ケア会議への参加	会議2回
(5) 紀南生活支援体制整備検討協議体会議への参加	会議1回
(6) 生活支援サポート事業の充実	養成講座1回 7名 利用20件
(7) 介護予防等の広報紙の制作	百までくまの散歩1回
(8) 熊野市社会福祉法人連絡会との事業連携	食料、物品提供 随時
(9) 介護職員初任者研修の実施の検討	

2 地域福祉活動の推進

社協ふれあいフェスタでは、雨天にもかかわらず多数の来場者があり、住民が福祉に触れる良い機会とすることができました。また、金山地区社協の協力のもと、コロナ禍で開催できなかったミニフェスタを開催することができ、地域の力強さを感じました。地区事業では、おうたやサロン等が地域の集いの場としての役割を果たしました。

(1) 福祉啓発事業の開催	
社協ふれあいフェスタ	1回 約600名
社協ふれあいミニフェスタ	1回 金山地区 約350名
三世代交流ニュースポーツ大会	3回 延べ103名
(2) 地区事業の実施	
小地域デイサービスおうた	5地区 延べ318名
ふれあいいいききサロン	23グループ うち新規3グループ
みいつカフェ	11回 延べ141名
(3) 各種研修会・講座の実施	
福祉委員研修会	2回 延べ77名
なんでも講座	6回 延べ185名

(4) その他

福祉機器・物品等貸出事業	25 件
おもちゃ病院の運営	月 1 回開催 延べ 6 回
リサイクル登録制度	4 件

3 ボランティアセンター機能の強化

ボランティア団体への側面的な支援と共に、養成講座などを開催することでボランティア活動に繋げることができました。

災害ボランティアセンターについては、震災への職員派遣、さらに 10 月に能登半島で起こった水害支援を行ったことで、実戦経験に加え、日ごろの備えの大切さを再確認できました。

- (1) ボランティアセンターの運営（相談、調整、登録、活動保険加入）
- (2) ボランティア研修会・養成講座の実施 2 回 延べ 58 名
- (3) ボランティア表彰制度の実施 受彰者 2 名
- (4) 災害ボランティア養成講座 1 回 8 名
災害ボランティアセンター運営訓練の実施 輪島市ボランティアセンター派遣
- (5) 学生向けボランティア活動の支援 12 名 4 団体
- (6) 福祉教育・啓発活動の推進（活動機材の貸出、講師派遣等）

4 障害福祉事業の推進

熊野市福祉事務所や障害者総合相談支援センター「あしすと」等、関係機関との連携を図りながら事業を実施しましたが、「生活交流会」、「ふらった〜」では利用者が少ない状態が続き、新規利用の獲得には至りませんでした。熊野市身体障害者（児）福祉連合会の事務局として滞りなく会の運営をサポートすることができました。

- (1) 紀南地域知的障害者生活交流会の運営 4 回
- (2) ふらったーの実施 3 回
- (3) 熊野市身体障害者（児）福祉連合会の支援

5 権利擁護支援の安定

三重県社会福祉協議会、裁判所や弁護士、熊野市福祉事務所や地域包括支援センター等、多職種連携を図りながら、安定した業務の継続を図ることができました。

- (1) 日常生活自立支援事業の受託、運営 利用者 27 名 支援回数 611 回
- (2) 法人後見事業（成年後見制度） 受任 1 件
- (3) 弁護士による無料法律相談所の開設 毎月 1 回 延べ 18 件

6 生活困窮世帯への支援の充実

資金貸付や食糧支援、その他生活再建に向け、行政機関や学校機関、市内社会福祉法人等と連携しながら、熊野市内における生活困窮世帯に対する支援を行いました。

(1) 生活福祉資金貸付	3件	(5) 緊急食糧物品提供	18件
(2) 高額療養費貸付	0件	(6) 就労活動支援	延べ51件
(3) 助け合い金庫貸付	0件	(7) ライフイベントサポート	0件
(4) 学習端末購入費助成	2件	(衣装貸与)	
(高等学校入学時)			

7 社会福祉大会の開催

福祉活動の発展に寄与された団体や個人へ顕彰を行うとともに、今後更なる活躍を誓い合うことを目的に式典（第1部）を開催しました。引き続き、福祉全般に関する講演会、落語家の桂ぽんぽ娘による「ふれあいほのぼの噺」（第2部）を開催しました。

- (1) 熊野市社会福祉大会の実施

8 福祉団体等の支援

市内や紀南地域の福祉団体等の活動を財政的、人的に支援しながら、協働して地域福祉活動を推進しました。

- (1) 熊野市身体障害者（児）福祉連合会 事務局
- (2) 熊野市老人クラブ連合会 事務局
- (3) 熊野市遺族会への助成
- (4) 熊野保護区保護司会への助成
- (5) 熊野市青少年育成市民会議への助成
- (6) 紀南視覚障害者福祉協会への助成

Ⅲ 福祉サービス事業

1 居宅介護支援事業の運営

要介護者からの相談に応じるほか、その心身の状況・環境などに応じて居宅サービス又は施設サービスを適切に利用できるような計画を作成し、サービス提供が確保されるようサービス事業者、施設等と連絡調整を行いました。

職員の勤務形態変更（継続雇用で65歳以上となる3名の常勤職員が、非常勤勤務に変更）により、新規利用者の受入が難しい時期もありましたが、一定の利用者数を確保しつつ、可能な範囲で利用者の受入を行いました。年度後期から、死亡や施設入所等を理由に利用者数が減少しましたが、ケア会議や研修を通し、多職種、他機関との連携を深めながら、積極的に新規利用者を受入れました。

介護度	利用件数	
要支援1	50	(105)
要支援2	229	(190)
事業対象者	0	(5)
小計	279	(300)
要介護1	409	(452)
要介護2	1,103	(1,140)
要介護3	987	(964)
要介護4	392	(357)
要介護5	232	(268)
小計	3,123	(3,181)
合計	3,402	(3,481)

()内は令和5年度実績

2 訪問介護事業の運営

利用者が在宅で安心して暮らしていけるよう身体介護（入浴、清拭、手足浴、着替え等）、生活援助（洗濯、掃除、料理、買い物等）、通院等乗降介助をはじめ、その他サービスを提供しました。

井戸／飛鳥／紀和 訪問介護

居宅介護支援事業所や訪問看護事業所、相談員等、多職種と情報を共有しながら、包括的な在宅生活支援を行いました。職員の資質向上の面では、研修会（虐待防止、感染症予防、介護技術向上）を3事業所合同で行い、研修会の中で利用者の情報交換を行うことで、介助方法に問題が無いかという職員の不安軽減に努めました。職員の健康管理については、定期健康診断の実施と、班会議や毎週末の活動報告提出時等に直接体調確認を行うとともに、危険予知トレーニングや事故防止の注意喚起を行うことで、労災事故防止に努めました。

介護度	井戸		飛鳥		紀和	
要支援 1 (総合含む)	569	(742)	318	(286)	243	(261)
要支援 2 (総合含む)	2,090	(2,172)	596	(674)	230	(350)
事業対象者	75	(112)	0	(0)	99	(95)
小計	2,734	(3,026)	914	(960)	572	(706)
要介護 1	733	(800)	596	(1,051)	645	(610)
要介護 2	2,960	(3,844)	3,362	(2,165)	1,002	(729)
要介護 3	4,140	(3,958)	3,624	(4,931)	1,196	(1,363)
要介護 4	1,199	(1,799)	2325	(3,843)	96	(158)
要介護 5	1,848	(3,405)	821	(769)	888	(819)
小計	10,880	(13,806)	10,728	(12,759)	3,827	(3,679)
合計	13,614	(16,832)	11,642	(13,719)	4,399	(4,385)

() 内は令和 5 年度実績

3 通所介護事業の運営

利用者の状態に応じ、可能な限り自立できるように、または、快適な日常生活を営むことができるように、送迎、食事、日課活動、入浴などのサービスを提供しました。

(1) 井戸通所介護

季節イベントの実施に加え、「春のくましゃん会」を開催(昼食はバイキング形式、他部署職員協力による催し)し、利用者が楽しめるプログラムの提供に努めました。創作した作品が、月間デイ(全国月刊誌)で入賞したことも、活動意欲の継続につながったと思います。

傾聴ボランティアや実習生、保育園児の訪問の受け入れなど、地域交流を継続して行いました。

(2) 飛鳥通所介護

利用者数は減少傾向にあり、新規利用があっても、入院や死亡、施設入所となり、定員(18名)に達する曜日が無いのが現状です。定期イベント「ひなたいむ」の回数を増やし、デイ参観(家族やケアマネ等を対象とした見学会)を企画することで、サービス内容の広報に努めました。

大きな怪我や事故は無かったものの、職員の腰痛や体調不良があったので、より一層、安全衛生面での対策が必要だと感じました。

(3) 紀和通所介護

地域的に非常勤スタッフの補充が極めて困難なことによる人員不足は、依然として続いており、スタッフ(看護職員)不足による休業を余儀なくされる日もありました。新規受け入れは9名で、年間の総利用回数は前年度とほぼ同じとなっています。

昼食にバーベキューをして、職員による催しを披露するなど、新たなイベントは、利用者の反響が良く、いつもと違う一面を見ることができました。

介護度	井戸	神川	飛鳥	紀和
要支援 1	80 (35)	126 (82)	54 (55)	27 (9)
要支援 2	283 (316)	83 (27)	323 (372)	351 (347)
事業対象者	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
小計	363 (352)	209 (109)	377 (427)	378 (356)
要介護 1	227 (467)	338 (203)	166 (217)	746 (611)
要介護 2	1,546 (1,612)	115 (271)	918 (1150)	868 (790)
要介護 3	1,250 (862)	126 (62)	985 (1064)	648 (913)
要介護 4	419 (623)	84 (32)	189 (238)	178 (171)
要介護 5	522 (368)	1 (0)	107 (93)	52 (28)
小計	3,964 (3,929)	664 (568)	2365 (2762)	2,492 (2,513)
合計	4,327 (4,281)	873 (677)	2742 (3189)	2,870 (2,869)

()内は令和 5 年度実績

4 訪問入浴介護事業の運営

身体の清潔の保持、心身機能の維持等を図ることを目的に、健康チェック、移動介助、入浴介助、状態観察、清拭、寝衣交換等のサービスを提供しました。

状態が不安定な利用者が多く、安定した実績を維持していく事が困難なサービスですが、月 1 回のスタッフミーティングで課題を検討し、市内唯一のサービス提供事業者として、利用者、家族のニーズに応じたサービスを提供しました。

介護度	利用件数
要介護 3	32 (2)
要介護 4	17 (33)
要介護 5	288 (378)
合計	337 (413)

※要介護 1、2 は利用なし

()内は令和 5 年度実績

5 生活介護事業等の運営

障がいのある方が、住み慣れた地域で自分らしい自立した生活が送れるように生活介護、生活支援等の障がい福祉サービスを提供しました。

(1) 生活介護事業（あゆみ事業所）

障がいのある方に介護サービスや生産活動の機会などを提供しました。

年度末時点での実利用者人数に変更はないものの、利用者の施設ショートステイ利用などの影響で、全体的に利用回数が減少しました。創作活動により出来上がった作品は、多くの人の目に触れるよう協力店舗等に展示するなど、事業所活動の広報にも努めました。

	実績	
利用件数	986	(1,196)
年度末時点の利用実人数	11	(11)

()内は令和5年度実績

(2) 相談支援事業（特定相談支援事業）

障がいのある方の自立生活を支援するために、サービス等利用計画書を作成し、福祉サービスの利用支援を行いました。

死亡や施設入所により、利用者数は減少しましたが、現契約者に対して安定した支援が継続できました。

計画作成件数
80 (83)

()内は令和5年度実績

(3) 居宅介護等事業

障がいのある方が住み慣れた地域で自分らしい自立した生活が送れるように、居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護の支援を行いました。

相談支援担当者との連携を図り、利用者のニーズに応じた支援ができるよう努めました。

日中の常時見守りが必要な重度訪問介護については、複数の事業所で連携して支援を行うことで在宅生活を支える一助となりました。

	井戸	飛鳥	紀和
利用件数	3,410 (3,651)	597 (634)	493 (476)

()内は令和5年度実績

(4) 移動支援事業

障がいのある方に外出のための移動支援を行いました。

利用対象者は少ないものの、地区によっては定期的なニーズもあり、有効に利用していただきました。福祉有償運送事業と連携することで、支援が必要な方に満足していただけるサービスが提供できました。

	井戸	飛鳥	紀和
利用件数	91 (81)	1 (1)	0 (0)

()内は令和5年度実績

(5) 地域活動支援センター事業（つみき）

令和6年度以降当面の間事業休止としています。

	実績
利用件数	— (171)
年度末時点の利用実人数	— (5)

()内は令和5年度実績

6 障害者就労・支援事業等の受託

(1) 障害者就労・支援事業

雇用、保健福祉、教育等の関係機関の連携拠点として、障がいのある方に就業面及び生活面における一体的な相談支援等を行いました。

年度後期に新規登録者が増え、年間の新規登録者は11名となりましたが、一般就労するには準備が整っておらず、過半数は就労系福祉事業所への利用となりました。

主な支援内容等	身体	知的	精神	その他	計
相談支援	15 (37)	211 (245)	110 (110)	56 (117)	392 (509)
職場実習のあっせん	0 (0)	2 (4)	0 (0)	1 (1)	3 (5)
年度内における就労実績	2 (1)	4 (4)	2 (0)	1 (1)	9 (6)
就労定着状況	0 (1)	3 (2)	0 (6)	1 (2)	4 (11)

()内は令和5年度実績

(2) 重度身体障害者等訪問入浴介護事業

重度の障がいがある方の身体の清潔の保持、心身機能の維持等を図ることを目的に、健康チェック、移動介助、入浴介助、状態観察、清拭、寝衣交換等のサービスを提供しました。

利用者数は少ないながらも、在宅で生活する重度障がいのある方にとっては有効なサービスとして活用いただくことができました。

	実績
利用件数	132 (134)
年度末時点の利用実人数	3 (3)

()内は令和5年度実績

(3) 高齢者筋力向上トレーニング事業

高齢者の筋力低下を防止して体力の向上を図るとともに、要介護状態になることを予防し、より自立した生活が送れるような健康づくりを目指しました。

新規参加者、サポーター、OB 会員ともに、参加者同士の交流を楽しみながら、積極的にトレーニングに取り組んでいただきました。

■OB 会会員 (1 期 4~6 月、2 期 7~9 月、3 期 10~12 月、4 期 1~3 月)

	井戸		紀和	
1 期	1,503	(1,134)	199	(210)
2 期	1,325	(937)	184	(161)
3 期	1,492	(1,114)	221	(170)
4 期	1,376	(1,185)	195	(186)
合計	5,696	(4,370)	799	(727)

()内は令和 5 年度実績

■新規参加者 (1 期 4~6 月、2 期 7~9 月、3 期 10~12 月、4 期 1~3 月)

	利用件数	
1 期	198	(249)
2 期	76	(256)
3 期	132	(220)
4 期	213	(85)
合計	619	(810)

()内は令和 5 年度実績

